

第4期

砂山地域まちづくり計画

【令和3年度～令和5年度】

みんなで話し合い、取り組み、

・
・
誰もが健幸で、

支え合う集落・地域を目指して



令和3年4月

砂山地域まちづくり協議会

1 はじめに

村上市では、各地域が抱える課題の解消や地域の活性化を目指し、市民と行政が一体となった「市民協働のまちづくり」が取り組まれています。平成23年度末には、その推進組織として「地域まちづくり組織」（以下「まちづくり協議会」と表記）が、市内に17組織が設立されました。

各まちづくり協議会には、地域の担当として市職員が配置されており、地域住民と共に活動を行う人的支援と、地域まちづくり交付金による財政的支援を受け、地域の特色を活かした活動が展開されています。

砂山地域まちづくり協議会（以下「協議会」という。）は、砂山小学校区の6集落で構成され、平成23年3月に設立しました。協議会では、3年を1期としたまちづくり計画を策定し、計画に基づいた活動を実施しています。第1期（平成24～26年度）及び第2期（平成27～29年度）では、「みんなで話し合い、みんなで取り組み、ふれあう集落・地域を目指して」とし、第3期（平成30～令和2年度）では、「みんなで話し合い、みんなで取り組み、支え合う集落・地域を目指して」を基本方針に掲げ、各集落単位で実施する集落事業と砂山地域全体で実施する地域事業の2つを柱として「地域の元気づくり」に取り組んできました。

しかしながら、急速な人口減少や少子高齢化が進み、さらに令和2年度において新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点から、まちづくり事業も中止または事業内容を縮小して実施するなどの対応がなされ、集落における事業も中止せざるを得ない状況となり、地域コミュニティを取り巻く状況が例年以上に厳しさを増している状況となっております。

第3期砂山地域まちづくり計画では、砂山地域の現状を把握することを目的として、地域の中学生以上全員を対象とした住民アンケート調査を行い、その結果から見えてきた世代別・男女別の住民ニーズや地域課題を分析し、今後の姿を見据えながら、取り組んできました。第4期砂山地域まちづくり計画（以下、「第4期計画」という。）では、第3期計画内容でこれからも取り組む必要があるものは、継続して取り組んでいくこととし、新たに子どもたちとの触れ合いに力を入れるため、小・中学校との連携や当地域に関係性を持っていただけの方を増やすため、関係人口創出・拡大を目的する取組など、私たちを取り巻く環境の変化に合わせた第4期計画として策定します。

2 地域の現況と課題

（1）地域の現況

①地域の概要

砂山地域は、神林地区の西部に位置し、「お幕場」を中心とした広大な松林や「大池」、平成の名水百選に選ばれた清流「荒川」、その清流が流れ込む日本海など、美しい自然に恵まれた地域です。

ここに暮らす人は、地域に愛着を持ち、昔からの伝統行事や文化、町並みなどをこの地域の誇れる財産として継承してきました。

自然や伝統のほかにも、美味しい農産物や魚介類、それらを食材とした郷土料理、そして何よりもあたたかい人とのつながりがあります。

②砂山地域6集落の特色

区が中心となり、住民同士のつながりをつくり、集落間の連携を図っています。防災、伝統文化、環境整備活動を消防団やPTAなどの各種団体と住民一人ひとりが協力し合って、より住みよい集落を目指して活動しています。

ア 清流「荒川」に面した牛屋・福田集落

集落の南側の平成の名水「荒川」と面し、その堤防からは、平野に広がる田園を一望することができます。堤防には桜が植栽され、春は桜、夏は清流の輝き、秋には色合いが変わりゆく田園の風景が眺められ、一年を通してウォーキングなどを楽しむことができます。また両集落では、毎年8月の祭礼時に獅子踊りが行われます。古くから引き継がれてきた伝統行事で、数か月前から準備に取り掛かり、集落全体で伝統の継承に取り組んでいます。

イ 砂丘地に位置する北新保・長松・赤松集落

砂山地域の西側は、砂丘地が高台を形成しています。北新保・長松・赤松集落はこの砂丘地に位置しています。砂丘地の畑は、柔らかく糖度が高い「柔肌ねぎ」の産地として有名です。また「お幕場」を擁する広大な「お幕場森林公園」や白鳥の飛来する「大池公園」には大勢の人が訪れます。

ウ 日本海に面する塩谷集落

塩谷集落は、北前船の寄港地として栄えた港町です。伝統的な妻入りの町屋は、歴史的な景観を感じさせます。毎年秋には、町屋散策のイベントに大勢の人が訪れます。町屋の他に御沢仏を納めた「円福寺」、新潟県で一番低い山「稲荷山」、塩谷大祭が行われる「塩竈神社」などたくさんの歴史的財産や自然景勝に恵まれた集落です。

※砂山地域の三つの宝

○日本の白砂青松百選「お幕場」

日本の白砂青松百選は、社団法人・日本の松の緑を守る会が選定した日本の美しい松原を伴った海岸のことです。江戸中期1700年代から江戸の終わり頃までの村上藩当時、お殿様の遊園・行楽の場所としてつくられたといわれています。一帯は松と白砂と苔の緑の景色だったということで、今もその面影を残しています。毎年5月に村上藩のあった頃を偲び、お幕場茶会が開かれています。

○平成の名水百選「荒川」

「荒川」は、平成20年6月に環境省が発表した「平成の名水百選」に選ばれました。選定対象は中・下流域で関川村、村上市、胎内市におよびます。砂山地域の人達は、昔からこの名水の恵みを受けています。

○お幕場森林公園・大池公園

塩谷から岩船までの海岸約3kmの間、国道345号線と海に挟まれた美しい赤松林が続いています。この一帯を「お幕場森林公園」と呼び、広さは83haにも及びます。公園内には遊歩道が整備され、大勢の方が散策に訪れています。この赤松林に囲まれた「大池」は、広さ約3haの砂丘湖です。ハクチョウの飛来地としても知られ、飛来数は年々増加し、今では1,000羽を超えるほどになっています。

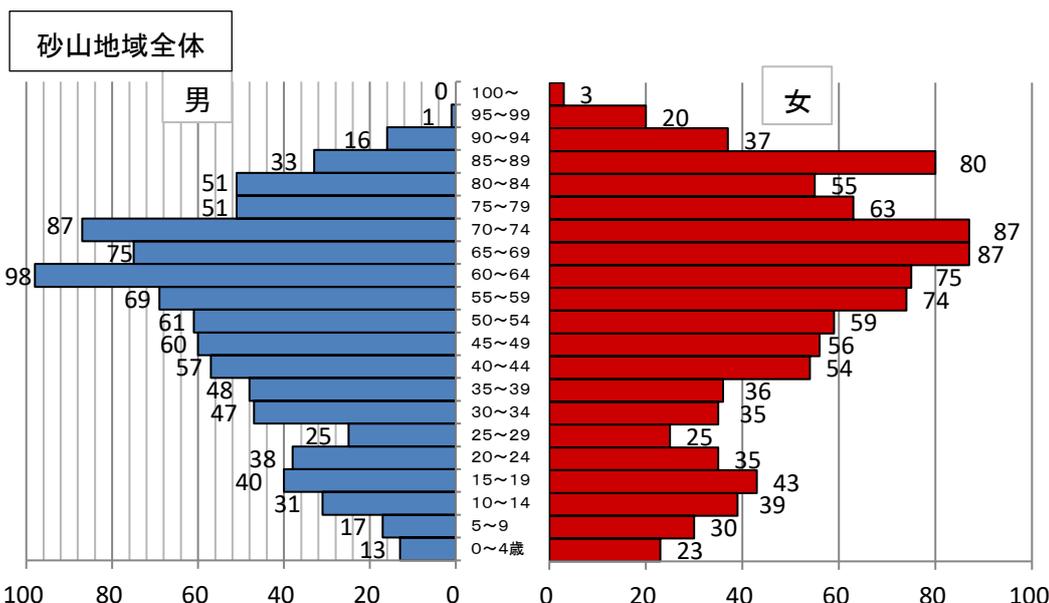
③砂山地域の人口と世帯数

砂山地域の人口は年々減少しており、2000年（平成12年）から2020年（令和2年）までの20年間での減少率は20.1%となっています。特に、2010年（平成22年）からの年少人口（0歳～14歳）の減少が加速しており、生産年齢人口の減少率の約2倍となっており、数値からすれば浮き彫りとなっていることがわかります。

【砂山地域：男女年齢別集計表】※ただし施設入所者は除く

砂山地域	男子	女子	合計	割合
人口	918	1,016	1,934	100.00%
15歳未満	61	92	153	9.40%
15歳～64歳	543	492	1,035	50.3%
65歳以上	314	432	746	40.3%
【参考】うち75歳以上	152	258	410	-
【参考】うち85歳以上	50	140	190	-

令和3年1月1日現在：市統計資料



(2) 地域の課題

砂山地域の抱える課題について、平成29年度に実施した住民アンケート調査の集計結果をまとめ、NPO法人都岐沙羅パートナーズセンターのご協力いただき、「砂山地域住民アンケート分析レポート ～結果から何が見えてくるか～」を作成し、世代別・男女別に整理しました。

砂山地域住民アンケート 配布数:1,918通、回収数:1,467通、回収率:76.5% (平成29年7月実施)

アンケート結果	ポイント
回答者の属性 回答者の半数近くが60代以上。(若い世代は少数派) 農業従事者の87.5%が60代以上。	世代別に意見をまとめないと若い世代の声が埋没する。 将来的に農地の維持管理が課題となる。
日常的な交通手段 80代になると車を運転する人の割合が減少 (70代→80代:男性▲33%、女性▲50%)	日常生活での移動が困難になる人が確実に増加。 移動の支援を考えていく必要がある。
インターネットの利用割合 全体の半数以上(52.1%)がインターネットを利用 (40代以下は約9割、50代でも約8割) (大半がスマホ・携帯で利用している人でした。)	50代以下はインターネットでの情報伝達が効果的。 (回覧板は若い世代の人が見ないうちに回ってしまっていることがある。)

地域活動への関心

「関心はあるが参加していない」(34.7%)が最も多く、10代男性(39.8%)、20代男性(39.3%)、40代女性(46.8%)は、神林地区の他地域と比較して最も高い割合でした。	「地域活動に参加していない＝関心がない」という訳ではない。→「余裕がない」という理由が多く、多様な関わり方を設けることで参加の可能性は十分あるのではないか。
「関心はないし参加もしていない」という人は若い世代に多く、20代男性(39.3%)、20代女性(55.1%)、30代女性(26.5%)が特に多いという結果でした。	参加しない理由を深掘りしていくことが重要。地域の中で少数になった若い人たちの声に真摯に耳を傾ける必要がある。

女性・若者の声を反映する必要性

地域全体では半数以上が「必要」と考えており、40代～60代の男性は約7割が「必要」と答えています。	役員世代も中堅世代も、もっと女性・若者の声を反映すべきと考えている。 声を反映させる場や機会の充実が必要。
---	--

定住受入の必要性、他地域との交流の必要性

定住者の受け入れについては4割以上の人が「必要」と考えているが、「わからない」という人も1/3 他地域との交流の必要性については「必要」と「わからない」がほぼ同じ割合(1/3)	人口減少対策として他地域からの移住・定住者の受け入れが必要と考えている人もいるが、今ひとつ実感が無いという人も多い。 今後を考え、地域での十分な話し合いが必要。
---	---

この地域・集落に住み続けたいと思いますか？

砂山地域では「住み続けたい」と答えた人は56.4%で、神林地区5地域の中で最も低い割合でした。 特に10代～30代が、男女とも他地域と比べて低い割合となっています。	10代と20代は「住み続けたい」が30%以下だが、「住み続けたいと思わない」が多い訳ではなく、「わからない」が一番多い。 若者が住み続けたいと思う地域の姿を探る。
---	--

自分の子供にもこの地域・集落に住んでほしいと思いますか？

地域全体では「住み続けてほしいと思う」が43.3%で、これも神林地区の中で最も低い割合でした。 特に30代男女、40代男性が他地域より低く、「思わない」という割合も高いという結果でした。	子育て中の親世代(30代～50代)の「住み続けてほしいと思う」割合が低く、親世代の考えが子に影響する可能性がある。 このままだと人口減少(流出)はさらに進行する。
--	--

この地域・集落に愛着がありますか？

地域全体では「愛着がある」と答えた人は56.8%。 やはり若い世代(10代～30代)は、他地域に比べ「愛着がある」と答えた割合が低く、「愛着がない」と答えた割合が高い結果となりました。	砂山地域では、特に若い世代の「地域離れ」の傾向が進んでいる。 仕事があっても地域に愛着がなければ、地域に残る人は減っていくのではないか。
---	---

地域・集落内で誇りに思っているものは何ですか？(複数回答)

誇りに思う地域資源のトップ5は		砂山地域の素晴らしい 地域資源 (お幕場、大池、荒川、田園風景等)や 伝統行事 (獅子踊り、七夕、お神輿等)を大切にし、盛り上げることが誇りになる。 一方、若い世代になるほど、誇りに思っているものが「無い」と答える割合も高くなり、 世代間の意識の違い にも目を向ける必要がある。
①地域内の景観・自然環境	46.3%	
②地域内の諸行事(祭り、イベント等)	32.9%	
③地域内に暮らす人々	20.9%	
④地域内の助け合いなどの社会関係	16.4%	
⑤地域内の特産物(農林水産物、加工品等)	14.6%	

近所づきあいで悩みの悩み(複数回答)

全体の6割近くが「 悩みなし 」と回答 40～60代は「忙しすぎる」という悩みが、80代は「 仲間がほしい 」という悩みの割合が高い傾向	人が減っているのに、役割・仕事量が変わらなければ 負担感が増すのは当然 。 今後さらに人が減れば、回らなくなる。
---	--

日常生活で不安に感じていること・困っていること(複数回答)

不安・困りごとのトップ5は、		
①健康面への不安がある	18.7%	60・70・80代ではトップ。 →自分の健康について不安視している人が多い。
②災害への備えや避難	17.0%	すべての世代で上位にランクイン。 →地域共通の課題として認識されている。
③玄関先の雪のけなど冬季の除雪	14.8%	50代以降で上位にランクイン。 →年代があがるに伴い、困りごととして認識。
④コンビニ・商店が少なく、日常の買い物不便	14.3%	10・30・40代、そして70・80代で上位に →30・40代は利便性を求めており、 10・70・80代は交通手段の確保が困難。
⑤医師や科が少ないなど、医療体制が不便	13.6%	幅広い世代でランクイン(40代では第2位)。

※要注意(全体の順位は高くないが、特定の世代では順位が高いもの)

⑧仲間と気軽に集まる場所がない	8.8%	10・20代で上位にランクイン(20代では第2位)。 →若者にとっては切実な問題であることを理解する。
⑪買い物・通院などの移動手段(交通手段)	7.2%	80代のみ上位にランクイン。 →少子高齢化が進むと、今後は更に増加する。

取り組みの満足度と重要度の評価

今後、重点的に取り組むべきテーマのトップ5は、		
①状況把握・持ち主との交渉など、空き家の管理活動		50代以上は圧倒的にこれが大切だという評価。 →今後も空き家は増える可能性が高い。
②避難訓練・連絡体制など、防災活動		30～60代は、この必要性を強く感じている。 →これまでの取り組みをさらに充実させる必要がある。

③買い物・通院など、移動支援活動	特に30～60代が、最も必要性を感じている。 →親や祖父母世代の移動支援を求めている。
④見回りなど、防犯・交通安全活動	30～60代は、この必要性を強く感じている。 →これまでの取組みをさらに充実させる必要がある。
⑤婚活イベント・紹介など、結婚対策	70代以上が、この必要性を強く感じている。 →若い世代よりも、親・祖父母世代が心配している。

平成29年度に実施した前述の住民アンケート調査の分析結果からは、若い世代の地域離れの傾向が明らかとなり、また、日常生活の困りごとでは、買い物や通院、冬期の除雪、災害時の避難など、やはり少子高齢化の影響による課題が多く挙げられました。

3 砂山地域のまちづくりの基本方針、将来像

これまでのまちづくり計画（第1期～第3期）では、「砂山地域事業」と「集落町内会事業」の2つを柱に据えた取り組みを行ってきました。「砂山地域事業」では、砂山地域の共通の財産として、お幕場、大池、荒川の3つを位置付け、それらに働きかける取り組みを通して、地域に関心や愛着を持つこと、そして砂山地域住民としての一体感の醸成を目指しました。「集落町内会事業」では、集落活動をまちづくりの基本と捉え、集落の活動を支援することで、集落住民の絆を深めることや、地域の元気づくりを目指してきました。

第4期計画においても、この2つの取り組みを継続し、これまでの課題を検証しながら、地域の皆さんが主体的に参加していただけるような活動になるよう検討していきます。

また、人口減少や少子高齢化に伴い、今後の集落事業や担い手育成など将来集落の課題となると思われることについて、地域のさまざまな組織や団体と連携を図りながら、継続的に課題解決に向けて、みんなで話し合い、取り組みを進めていくほか、新たな取り組みとして関係人口創出・拡大に関係する事業にも力を入れて取り組みを進めてまいります。

(1) 基本方針

みんなで話し合い、取り組み、誰もが健幸で支え合う集落・地域を目指して

砂山地域の目指す将来像を掲げる基本方針では、これまで住民一人ひとりがこれからも安心して暮らしていくために、みんなで支え合う集落・地域づくりを目指すこと掲げてまいりました。

第4期計画では、これまでの方針を基本として、目指していくためには、まずは誰もが健康で、幸せであることが重要です。1日1日を大切に、隣り近所同士がお互いさまの精神を忘れずに、そのような関係性を地域全体で意識を持ち、目指すことを基本方針とします。

(2) 目指すべき将来像

- ①砂山地域の財産を活かし、地域住民が憩い、他地域からも人が訪れる地域
- ②集落の伝統行事や文化が守られ、地域の誇りとして継承される地域
- ③災害への備えや避難体制が整備され、安心して暮らせる地域
- ④地域の課題をみんなで話し合い、支え合いながら暮らせる地域
- ⑤子どもたちとの触れ合いを大切に、地域資源などの魅力を発信する地域

(3) 具体的な取組み

将来像	取組内容
①砂山地域の財産を活かし、地域住民が憩い、他地域からも人が訪れる地域	<p>◆お幕場クリーン作戦</p> <p>これまで白砂青松の美しい松林を守っていくため、お幕場でのクリーン作戦を継続的に実施してきました。少しずつではありますが、白い砂地が広がり一定の成果があり、「取り組みを止めるとまた荒れてしまうので継続すべき」という意見が多かったこともあり、地域、集落、家族等でお幕場に親しむ機会を増やすこと等も検討しながら、関係機関とも連携を図りながら取り組んでいきます。</p> <p>◆花いっぱい事業</p> <p>第3期の取り組みでは、砂山地域の共通の財産である大池公園を花で飾り、多くの方に砂山地域に訪れてもらうことと、植栽や管理作業を通して地域住民のつながりを深めることを目的として実施しました。第4期では、苗の植栽や草取り作業等に行い、やり方を工夫しながら継続して取り組んでいきます。</p>
②集落の伝統行事や文化が守られ、地域の誇りとして継承される地域	<p>◆集落事業</p> <p>人口減少や少子高齢化が進み、地域を支える人材が不足する傾向になる中、伝統的な行事などの地域活動を続けることが困難になってきている集落もあります。また、集落の皆さんが一堂に会して顔を合わせる機会や地域住民同士のふれあいも以前より少なくなってきました。第4期では、集落内での話し合いを更に深め、より一層集落が元気になるような取り組みを検討していただき、集落単位で取り組む事業への支援を行います。</p>
③災害への備えや避難体制が整備され、安心して暮らせる地域	<p>◆地域防災活動（自主防災組織*1等との連携）</p> <p>第3期では「砂山地域自主防災連絡会議」を設置し、砂山地域全体で講演会や避難所運営ゲームなどを開催し、地域として防災知識の構築や情報共有を行うなど活動を行ってきました。第4期でも地域の課題や実情に合った対策を地域住民とともに考えていく機会を設けるなど検討してまいります。</p>

*1 自主防災組織とは、地域住民が協力・連携し、災害から「自分たちの地域は自分たちで守る」ために活動することを目的に結成する組織であり、日頃から災害に備えた様々な取り組みを実践するとともに、災害時には、災害による被害を最小限に食い止めるための活動を行います。

将来像	取組内容
<p>④地域の課題をみんなで話し合い、支え合いながら暮らせる地域</p>	<p>◆支え合いの地域づくり（集落支援員*2、生活支援協議体*3等との連携）</p> <p>砂山地域の6集落は、集落の規模や産業、年齢構成、人口減少率などに違いもあり、集落が抱えている課題も異なる部分もありますが、集落の現状と課題について、集落で活動するさまざまな組織や団体が共通認識を持ってこれからの集落の姿を話し合いながら、地域でできることを考えてまいります。</p>
	<p>◆敬老会の開催</p> <p>神林地区の敬老会は、公民館事業として実施していた頃からの伝統的な行事であり、毎年大勢の高齢者の皆さんにご参加いただいています。支え合いの意識を育む事業としても位置付けおりましたが、コロナ禍の中での開催方法について、実行委員会が中心となって検討して取り組んでまいります。</p>
	<p>◆研修会・ワークショップ等の開催</p> <p>砂山地域においても少子高齢化と人口減少は急速に進んでいます。住民アンケート調査から浮かび上がった地域のさまざまな課題に向き合い、各集落の役員の皆さんとまちづくり協議会が一緒になって地域の現状や他地区の取組みなどについて学び、これからも安心して暮らしていけるまちづくりを考えていくため、各種研修会やワークショップなどの計画を検討していきます。</p>
<p>⑤子どもたちとの触れ合いを大切にし、地域資源などの魅力を発信する地域</p>	<p>◆小中学校との連携について</p> <p>小学校統合により、令和2年4月より新たに「平林小学校」が開校されました。私たちはこれまでも小・中学校の児童との関係性を大切にし、連携を図ってまいりました。第4期においても、平林地域まちづくり協議会と連携を図り、継続的に地域の子どものために地域として伝えていくべきことを研究しながら、小学校再編に伴う、今後もまちづくり協議会のあり方についても併せて、検討を進めてまいります。</p>

*2 集落支援員は、地方公共団体からの委嘱を受け、市町村職員と連携して集落点検の実施、集落のあり方に関する住民同士・住民と地方公共団体の話し合いに従事します。また、話し合いを通じて必要と認められる地域の実情に応じた集落の維持・活性化対策に取り組みます。

*3 生活支援協議体は、高齢者人口の増加などにより、介護サービスの利用者UP→介護保険料UPが予想されることから、地域の支え合いによる生活支援や介護予防を考えていくことを目的に各地区で設置されています。神林地区では、5地域のまちづくり協議会、民生委員、NPO法人希楽々、社会福祉協議会、塩谷基地等の各団体代表者が構成メンバーになっています。